



先日は、本学学生の新型コロナウイルス感染について、皆様には大変ご心配をおかけしました。このご時世、どちら側になる可能性もある中で、思いやりの言葉をかけ合える関係にあることに感謝の気持ちと幸せを感じました。自分と大切な人を守るために、これからも丁寧に感染対策をし、みんなが集える場を継続できるように努めてまいります。

さて、今月号では秋を楽しんだ様子をご紹介します。

落ち葉の“音”“匂い”・・・秋だ！

澄み渡った青空が高く暖かな秋の日。今日はみんなで奥の方の庭まで散歩に行きました。赤や黄色の紅葉を楽しみながら、足元の落ち葉を踏むと「カサカサ・・・サクサク・・・」何だか楽しい！ みんなで両足で踏みながら、ケラケラ笑い声も聞こえてきます。落ち葉を両手いっぱい集めて空高く舞い上がらせると、落ち葉のシャワーに大喜びのSちゃん（3歳8か月）とMくん（2歳）とKちゃん（2歳4か月）。虫取り網で落ち葉を受け止めて集める遊びが始まりました。お母さんに抱っこされた小さなYちゃん（7か月）も、秋の柔らかな日差しと落ち葉の匂いを感じ、秋を五感で味わったことでしょう。



子どもが“やる気”になることは



庭の築山に、長い板が掛けてあります。子どもの「挑戦したい」という気持ちを刺激するためでもあります。

Kちゃん（2歳4か月）は、はじめは見ているだけでした。お母さんの励ましを受け、手をつないで挑戦しているうちに、1人で登ろうとするようになりました。



正面から誰かが降りてくると心細くなってまたお母さんの手を求めたり、うまく登れずに転んでしまうとまたお母さんに助けてもらったり、心の安全基地と冒険の世界を行ったり来たりします。自分の力を知り、確かめながら、少しずつ自分で難易度をあげて楽しめます。子どもは、簡単すぎることにはやる気は起きません。難しすぎることにもやる気は起きません。成功確率 50%くらいのことにやる気をそそられます。



今日は S くん (1 歳 11 か月) のやる気スイッチが入ったようです。周りの大人たちが見守ってくれている眼差しも S くんを支える力になります。登頂成功!! しかし、そこには「ぎゃお〜!!」と怪獣のように全身で威嚇する M くん (2 歳) の姿がありました。「僕が登っていたんだぞ!」「僕の場所だぞ!」と言っているのでしょうか。どちらの子も真剣です。周囲の大人が互いの気持ちを受け止め、代弁してあげています。

子どもも毎日試練の連続ですね・・・

このような経験を相手に気兼ねなくさせてもらえる育ち合える仲間がいる「親と子のひろば」です。

見守りの中で、互いに刺激し合って、育ち合う子どもたち



I ちゃんと Y ちゃんは、お誕生日が 1 日違いの 7 か月です。2 人を囲んで、お母さんたちも話が弾みます。1 年生も一緒に仲間に入れていただいています。つかまり立ちを始めた 2 人の後ろ姿のかわいいこと!

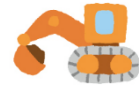


はい。ちゃんと正面からのショットも撮りましたよ。I ちゃん、Y ちゃん、立てるようになると景色が変わるね。歩き始めると、楽しい冒険の世界が待っているよ。





こちらでは、Sちゃん(11か月)とYちゃん(7か月)がおもちゃを手に持って、音を出して遊んでいます。家庭では親と1対1で遊ぶことが多くても、「親と子のひろば」に来ると、どの子も周囲の子どもがしていることに興味津々です。他の子のしていることをじっと目で追っていたりします。その姿から、どれだけ多くのことを吸収し、学んでいるのでしょうか。



Tちゃん(1歳10か月)は、「入れる」ことに夢中のようなです。100円ショップのタッパーに穴を空けて、ペットボトルのキャップを布で包んだものや平たいものを「入るかな〜」「どの穴なら入るかな〜」と考えながら入れています。そして、また出してみる。これが楽しい時期・・・ありますよね。満足するまで何度でもしています。後ろで見守っているお母さんの優しい眼差しも、Tちゃんの自主性を育てています。



動物たちに見守られながら、あっという間にパズルを完成させたSちゃん(3歳8か月)。



その後ろでミニカーで遊んでいた車大好きなDくん(2歳2か月)が、Sちゃんのパズルに興味を示しました。だって、このパズルは、様々な車が描いてあるのですもの!

するとSちゃんは、自然にDくんを迎え入れ、Dくんが手にしたピースをはめる場所の裏側から指を出しています。Sちゃんの小さな指が、台紙の穴からニョロニョロと出てくるものだから、Dくんも楽しくなってきました。言葉で指示をするのではなく、この優しいアドバイス! Dくんは、次々とパーツがはまっていくことが嬉しく、この表情です。

育ち合う子どもたちの姿に感動します。



畑で育った野菜たち。畑で育った子どもたち。畑で育った学生たち！



庭の畑では「庭プロジェクト」の学生たちが暑い夏の間世話をしてくれた野菜たちが、グングン育っていました。初心者農業とは思えないほどです。学生たちは、子どもたちに体験して欲しいこととして、①ツルを伸ばしてそこに実をつける野菜 ②葉物野菜 ③土の中にできる野菜 という観点から、野菜を選んで育てていました。

夏の間収穫を楽しんだトマトやナスが終わり、現在は土からフッサフッサと葉を茂らせているものばかりです。この下に、人参や大根、カブが隠れていると子どもたちは想像したでしょうか！ それを考えると、ワクワクしてしまう学生たち。いよいよ収穫の時がきました。



カブ畑の中にかわいいお姫様が一人います。その隣では、スポッと抜けたカブに目を丸くしている Y ちゃん（2歳2か月）。その Y ちゃんの姿を見て、嬉しそうな庭プロジェクトの RH さん（1年生）。



RM さん（1年生）と RK さん（1年生）は、手を貸さずに S ちゃん（3歳8か月）を見守ることにしたようです。H さん（1年生）は、H ちゃん（2歳9か月）が人参を収穫している様子を本人以上に目を輝かせ声を掛けています。庭プロジェクトメンバーは、子どもたち一人一人に寄り添いながら、その驚きや発見に共感していました。

「一番大きく育った大根は、どうしようか・・・」「みんなで一緒に抜こうか？」すると S ちゃん（3歳8か月）が、大根の葉っぱからパッと手を離しました。大根の葉は、トゲトゲしていて痛かったのです。スーパーに並んでいる大根では感じられないことですね。その後、学生も手伝って全て収穫できました。



こんなにたくさん収穫できました！
さて、ここからは次の体験です。野菜を切って、匂いや味や切った断面も感じてもらおうと計画しています。

無農薬の野菜のため、虫もたくさんついています。人も虫もみんな懸命に生きています。水で良く洗い、子どもの目の前で包丁で切ってみせます。その工程も子どもは興味津々！



匂いを嗅いでみたり、小さく切って食べてみたりしました。採りたての人参を口にしたら子どもたちは、ニコニコ顔になりました。「おいしい？」「本当に？」と問いかける大人たちに、笑顔でうなずいて答えてくれます。大人たちは、子どもが生の人参をおいしいと言って食べるなんてと半信半疑です。私たちも食べてみようよ・・・と、大人たちも一切れずつもらって食べてみました。オイシイ…！

子どもは、本当においしいものを分かるのですね。



今日は、庭で絵本をみましょう。
福音館書店の「やさい」の絵本を読みました。

野菜の収穫を通して、野菜に触れた感触、匂い、味、そして、共感できる人が隣に居る喜び等、たくさんの感情体験もしました。子どもも親も、そして学生も、畑での活動を通して得たものは、はかりしれないものでした。

この顔が見たくて、これまで活動してきたメンバーたちです。
庭プロジェクトの皆さん、ありがとうございました！



“ととけっこう”のおはなし会 開催しました



Sakura no Seibo Junior College Sakura no Seibo Junior College Sakura no Seibo Junior College

第7回 ととけっこうの おはなし会

日時：2020年
12/2(水), 12/9(水)
11:00~11:30
場所：桜の聖母短期大学
ミリアム館(保育棟)1階保育室

～プログラム～

- ♪わらべうた 『ととけっこう』
- 紙芝居『わたしはだあれ』 演じ手：富田
ケロボンス 作 山田美津子 絵
- 絵本『どれがほかわかる？』 演じ手 岩井
カーラ・カスキン 作・絵
- ♪わらべうた『おすわりやす』 演じ手：富田
- 紙芝居『てぶくろ』 演じ手：奥田
ウクライナ民話 堀尾 青史 脚本 眞田 美子 画
- ♪わらべうた 『ととけっこう』

桜の聖母短期大学 図書館情報センター × 親と子のひろば
遠藤修司 岩井千華/教員 奥田美由紀/教員 富田祐香/保育士
菅野愛美 川村瑠莉花/司書
問い合わせ：024-534-7137 (短大代表)
*親と子のひろばの登録者対象です

本学図書館司書と司書課程の教員と一緒に計画してきた「ととけっこうのおはなし会」。2回の開催を予定していましたが、残念ながら1回の開催になってしまいました。

紙芝居の舞台を用意し、いつもとはちょっと違う雰囲気です。子どもたちは、何が始まるのかな？という表情です。お母さんと一緒に演者の声に耳を傾けています。



わらべうた「おすわりやす」では、お母さんの膝の上で揺られ歌に合わせてスキンシップをとりました。ご家庭でも、ちょっとした時間に歌を口ずさみ、お子さんと楽しんではいかがでしょうか。

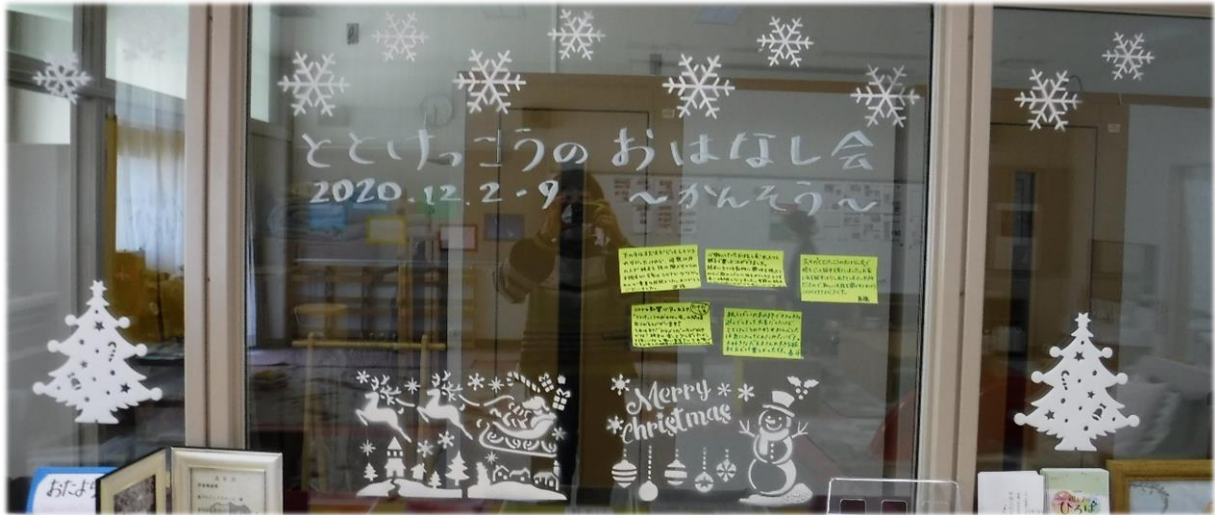


途中で他の遊びに興味を持つ子、お話よりも紙芝居の舞台に興味を示す子、それはそれでよいと思います。子どもがしたいことができることが大切な時期と捉えています。他のことをしながらも耳では聞いていたり、またお話が聞きたくて戻ってきたりします。その時に見ればよいし、また後日でも良いのです。紙芝居の舞台で遊びたかった H くん(1歳10か月)に、満足いくまで舞台上で遊ばせてあげたかったと思いました。





今回は、冬をテーマに司書課程の学生が選書してくれました。また、日頃子育てに忙しいママたちにも、本を手にとってもらいたい・・・と、司書さんは大人向けの本も選書して準備してくれました。どちらもリスト化してお持ち帰りいただきました。このリストは、まだまだありますので、ご自由にお持ちください。



参加された5組の方に、感想を書いていただきました。このように受け止めていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。「親と子のひろば」の保育方針にもあるように、子どもにとって、親にとって、学生にとって意義があり、育ち合えるこの場であり続けたいと思います。



春を楽しみに・・・庭仕事

冬を前に寂しくなってきた庭では、来春に向けての準備が始まりました。春の庭をイメージして、庭プロジェクトの学生たちが種や球根を植えてくれました。小さな子どもたちにとっては「土の中に何やら埋めて、何をしているの?!」という印象でしょう。この種たちが、来年の春に芽を出し花を咲かせたとき、子どもたちにたくさんの自然体験をもたらしてくれることでしょう。

そして、畑にはイチゴの苗を植えました。「イチゴ」と聞いて、すぐに想像できる子どもたちはニコニコです。今年の体験から、畑で食べるものができることを知っているのです。大人たちが「イチゴ楽しみだね～」と言うから尚更です。





イチゴが実ったら、人が早いかな、鳥が早いかな、虫が早いかな競争になりそう！と、ドキドキしているのは私だけでしょうか。

寂しかった庭に、クリスマスの寄せ植えもしてくれました。冬も楽しみながら、元気に乗り越えましょうね！



新型コロナウイルス感染拡大に伴い、急な判断で「親と子のひろば」をお休みすることがあります。その際は、安心安全が確認できたところで開催の判断をしますので、その都度、HPでご確認をお願いします。こんな時でも、こんな時だからこそ、子どもたちの経験の場、子育て中の親同志がつながる場を継続し、子どもたちの育ちを守りたいと思います。

みなさま、今年も楽しい時間をともに過ごさせていただきありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

よいお年をお迎えください。

文責 奥田美由紀

今後の予定

1月 15日（金）
20日（水）
22日（金）
27日（水）

これまでは、予約サイトでの申し込みおよびキャンセルは当日朝9時までとしていましたが、今後は時間の制限を設けません。開催中も予約サイトを見て空きがございましたら、途中からでも是非ご参加ください。

1月の予定は、HP および予約サイトに掲載後、ご予約を受け付けます。1月もご予約をお待ちしています。



桜の聖母短期大学

🏠 福島市花園町 3-6

☎ 024-534-7137

（代表）

